

# ジャズの歴史に残る 伝説的ライブが よみがえる

ジャズ界のトップ・オブ・トップ  
ビッグバンドを率いて、  
またも兵庫に熱狂を！

Special Guest



グラミー賞(10回)、アカデミー賞受賞  
映画『卒業』『恋に落ちて』『黄昏』などの音楽を作曲

フュージョン界のスーパースター

デイヴ・グルーシン(指揮・ピアノ)



1980年、日本武道館。3万人の観客が渡辺貞夫の音楽に沸いた。

“グルーヴ”という言葉がある。元来は「溝」の意で、20世紀、レコードの「溝」を指したことに因り、ジャズなどのポピュラー音楽において、素晴らしい演奏を表す俗語に転じたという。感覚的な言葉なので、定義や使い方は多々あるが、共通して言えることは溝に“ハマる”音楽と聴き手との一体感。ポピュラー音楽に限らずクラシック音楽でもこの感覚は在るかもしれない。それは、“ノリ”の堆積が生み出す“高揚感”や、場合によっては体のコアに食らうような“重圧感”であることもあり得るだろう。いずれにしろ、どうにも抗いがたく、音楽に体を支配される感覚、ということか。

そこで、渡辺貞夫のアルバム「HOW'S EVERYTHING」である。今年12月の彼のコンサートでは、同アルバムから中心的に選曲されるが、これは1980年7月、日本武道館で、

渡辺貞夫が行った歴史的ライブを収録したものだ。同年に米国で先に発売され、日本に逆輸入された名盤である。

裏面へ続く



1980年、日本武道館。100人規模のオーケストラを背に立つ渡辺貞夫。

渡辺のもとに、後述のグルーシンほか米国の著名ミュージシャンが集まり、さらに管弦楽（東京フィルハーモニー交響楽団）を加えてのライブ。3日間で3万人を動員した。録音からでも伝わってくるのは、渦のような観客の“グルーヴ”感。演奏されている音楽に難解さは無く、万人の耳にすっと入るものだが、高いオリジナリティと意外性もある。頭ではなく体で感じられる音楽でありながら、凡庸さとは無縁なのだ。その絶妙な線を行くのが、彼らが一流たる所以。こういう音楽にこそ“グルーヴ”が宿るのではないだろうか。

その際に音楽監督を務めたのが**デイヴ・グルーシン**だ。70年代のフュージョン・ブームの中心人物である彼は、映画音楽の分野でも『卒業』の音楽で、ポール・サイモンとともに初めてグラミー賞を受賞して以来、合計で10度も同賞を受賞しており、アカデミー賞も『ミラグロ』で受賞した。ほかにも映画『恋に落ちて』『黄昏』『コンドル』等で音楽を手がけた、**現代米国が誇る作編曲家の一人**である。

そのグルーシンが今年、ふたたび渡辺貞夫と共演する。**一流の面々ばかりを集めたビッグバンド**だけでも聴きごたえは十分なのに、グルーシンの参加によりさらなる化学反応が生じることは間違いない。36年前の熱気が容貌を変えて再生され、今冬、新たなる“グルーヴ”を興すことだろう。

渡辺貞夫が呼んだ、過去2年のジャズ・フェスティバルの熱狂。毎年、新鮮なジャズの愉しみを教えてくれる。



2014年「渡辺貞夫オーケストラ」。今年出演するミュージシャンも含め、日米の第一線で活躍する奏者が揃ったビッグバンドによる興奮のステージ。



2015年「Sadao Watanabe Naturally」。チェロのジャキス・モレンバウムほか、ブラジルのリズムセクション、弦楽アンサンブルとともに郷愁のブラジル音楽を。

## Hyogo クリスマス・ジャズ・フェスティバル 2016 **渡辺貞夫オーケストラ with デイヴ・グルーシン**

**12.4 (日) 5:00pm 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,000 D ¥2,000**

[アルトサクソ] 渡辺貞夫 [指揮・ピアノ] デイヴ・グルーシン [ピアノ] ラッセル・フェランテ [ギター] ロベン・フォード  
 [ベース] ベン・ウィリアムス [ドラムス] ウィリアム・ケネディ [パーカッション] スティーヴ・ソートン、ンジャセ・ニャン  
 [アルトサクソ] 宮崎隆睦、近藤和彦 [テナーサクソ] 小池 修、今尾敏道 [バロンサクソ] 佐々木はるか  
 [トロンボーン] 村田陽一、辻 冬樹、奥村 晃 [バストロンボーン] 山城純子 [トランペット] 西村浩二、佐久間 勲、奥村 晶、松島啓之

PROGRAM : アルバム「HOW'S EVERYTHING」収録曲を中心に演奏予定（詳細は公演当日に発表いたします）

## あわせて聴きたい、多彩なジャズ **Hyogo クリスマス・ジャズ・フェスティバル 2016**

ジャズ・ヴァイオリンの女王、大人の夜  
**寺井尚子 (Vn) クインテット**

**12.13 (火) 7:00pm 阪急 中ホール**  
 A ¥5,000 B ¥4,000



©Masamitsu Tomita

澤野工房イチオシ、イタリアのトリオ  
**ロベルト・オルサー (Pf) トリオ**

**12.16 (金) 7:00pm 神戸女学院小ホール**  
 A ¥5,000 B ¥4,000



- 12/17「北村英治カルテット」、12/23「山中千尋 with ラズロ・ガードニー」はご好評につき完売しました。
- 12/25「アロージャズオーケストラ&日野皓正 with マリーン」の残席状況につきましては、チケットオフィスにお問い合わせください。

ご予約・お問い合わせ：芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 (10:00am-5:00pm 月曜休※祝日の場合翌日) <http://www.gcenter-hyogo.jp>

※未就学児童はご入場いただけません。※やむをえない事情により、出演者等が変更となる場合がございます。主催：兵庫県／兵庫県立芸術文化センター